

(運営推進会議 令和3年4月26日開催)

**10.日常生活の支援について**

◆今回の自己評価の状況

(全職員へアンケート)		よくできている	なんとか出来ている	あまりできていない	ほとんどできていない
1	利用者様の状態に合わせた食事、入浴、排泄などの基礎的な介護が出来ますか？	3	7		
2	利用者様の気持ちや体調の変化に気付いた時にその都度、職員間での共有が出来ますか？	2	8		
3	共有された利用者様の気持ちや体調の変化に即時対応が出来ますか？	2	7	1	
4	利用者様の声にならない声をチームで把握出来ていますか？		6	4	

出来ている点 (全職員へアンケート調査)

- ・朝礼、終礼、伝達事項のノートなどを通して情報の共有を行っております。
- ・ご利用者様の体調の変化、入浴後のスキントラブルの有無など看護師に必ず伝達し確認と処置の実施をしております。
- ・ひとり一人の声かけを一生懸命、誠実にいきなり熱心さがあると認識しています。
- ・入浴時の全身状態や皮膚の観察、および看護師への連携（洗身やタオルドライなど、とても丁寧に行っていると感じています。）
- ・新人職員との能力の差がみられるものの経験のある職員が声かけや指導をしていて対応しています。
- ・利用者様の状態（例えば腰痛が悪化しているときは痛みの軽減ができるようにバスボードや車椅子を使用しています）に応じて入浴方法を変更しています。
- ・「何かいつもと違う様子がある」と思うと気軽に職員間で情報を共有するようにしています。
- ・利用中、帰宅を急がれる傾向のある方で不穏になれる前の症状に注視し、興味のあることで集中していただけるように関わりを持ったりトイレへの声かけを行い安心していただける対応を心がけています。
- ・事業所内の連絡ノートに何でも情報を記載し朝礼や終礼で報告をし合い情報共有をしています。
- ・終礼での情報共有が利用者様への振り返りになり大切な情報源になっています。
- ・異変を感じると管理者や看護師に連絡をとっています。
- ・報連相を怠らず「おかしい」と思ったら声に出すように心がけています。
- ・記録をするときも要観察事項は色を付けるなどして注意を促しています。

出来ていない点 (全職員へアンケート調査)

- ・自分の気持ちを主張されないご利用者様への関わりが少ないように思います。(レクレーションなど)
- ・みんなが決めたルールが徹底して守ることができていないことがある。
- ・1日の業務の中で時間の隙間を見つけて柔軟に動くことができていない。
- ・新人教育方法の徹底ができていない (OJT や e ラーニングなど目標を定めゴールを目指せる指導方法の確立が必要)
- ・新規利用者の情報収集の仕方の柔軟性 (医療ニーズの高い場合看護師同伴にするなど)
- ・経験がない方は、何が分からないかが分からないので、もっと細やかな指導をした方がよい。
- ・主張が少ない方に対し、積極的にかかわり、気持ちやニーズを聴きだす取り組みができていない。
- ・朝礼などで伝えていなかったりして伝達漏れがある。
- ・利用者のこだわりを把握しきれないことがある。
- ・口にだして“〇〇してほしい”と言われる利用者様ばかりではないので利用者様の希望や気持ちを把握できているか不安なときがある。
- ・レク作品や入浴介助など利用者様がどうされたいか、これでよかったのか迷う事があります。
- ・認知症の進行に応じた対応ができていないことがある。
- ・ご利用者様の声にならない声を拾えきれない。またチームで把握しきれない。
- ・利用者様の気持ちに即時対応で寄り添えていない。
- ・予測するという面で不足があると感じます。
- ・利用者の休息と活動の判断で迷う事がある。
- ・

なぜ？どおして？できてないのか？その理由

- ・どうしても主張の強いご利用者様の方へ対応が偏ってしまう。
- ・スタッフ数が多いことで依存しあっていることが大きな原因かと思う。指導者がいないことにも繋がっている気がします。

- ・専門職としてお互いを認め合いそれぞれの役割を知り、対応できていないことが原因にあげられると思う。
- ・未経験の職員の指導スケジュールを見ていないか、もしないなら作成した方がよい。
- ・もっと利用者様への関わっていく意識を持つ事。関わる時間を確保すること。
- ・連絡ノートが見ることが出来ていないことがあり職員全員に伝達できていなかったりして、思い込みで動いたりすることがある。
- ・利用者様の声にならない声を聞こうとしていないこと
- ・レクレーションも“何もしたくない”という今の気持ちを瞬時に共有できず、不安になり再度確認をしてしまったことがある。
- ・排泄介助を行うとき、利用者様の羞恥心を考えているが方法の統一できていないことがあった。
- ・介護、看護の自己勉強の不足があると思います。
- ・業務に追われて利用者様とのコミュニケーション不足の時があります。
- ・声かけに配慮が足りないことがある。例えば、利用者様へ「トイレ」と言ってしまい、断られる事など。
- ・利用者様 ひとり一人とじっくりコミュニケーションが全職員できていない。

#### 具体的な改善計画

- ・職員間、家人様と職員での気づきの共有を徹底すること→自己管理（専門職としての心構え）とチームでの声のかけあい
- ・ご利用者様の好きな事や得意なこと（苦手なことや嫌な事含む）アセスメントとその情報を実際に活かす取り組み→シートの完成
- ・新人指導の確立
- ・新規利用者様の情報収集の方法の見直し
- ・1ヶ月に1回（15分）の利用者を巻き込んだ研修の効果を考え直す（実のある研修を）→研修効果の検証
- ・オリエンテーションの手順を作成する。（幹部）
- ・業務内容の理解、タイムスケジュールを把握し、連携する話し合いの実施
- ・声に出しあえる関係性の構築とコミュニケーションの取りやすい場づくり
- ・継続的な学習時間、職場内での学習会

部署移動により新人さんが増えてきたこともあり、指導方法の統一、マニュアル化の問題が出てきています。また個々の情報収集に頼り切っているところがあり、その情報を具体的にどう行動で実施するのか、職員の理解度に応じて、フォロー体制を変化させていく必要性を感じました。

次に利用定員が一杯になったときでも、個別のニーズをしっかりと拾えるように、意識の向上はもちろんですが、アセスメントの充実を図り情報を共有し取り組んでいく事。またモニタリングやケアカンファレンスの中身の充実に取り組んでいきたいです。

個別の自己研鑽の必要性も上がりましたが、事業所としての学習機会を増やし、様々な手法でここに応じた学習環境を整えていきたいと思っています。

#### 運営推進委員さんからのアドバイス・意見

--